

(様式 1)

令和元年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立文花中学校
校長名	稲垣 吉実

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">第 2、3 学年の英語において、全国平均正答率を 2 年 0.5 ポイント、3 年 2.4 ポイント上回った。国語において、第 2、3 学年とも前年度の、全国平均正答率との差が縮まり、全学年で、全国平均正答率に 1.1～4.4 ポイント差まで近づいてきている。全体的に全国平均正答率との差が -10 ポイントの観点から昨年度 22～今年度 10 へと減った。	<ul style="list-style-type: none">3 学年とも理科、数学が悪く、全ての観点で、全国平均正答率を 5 ポイント以上下回ってしまった。第 1 学年において、4 教科全てで全国平均正答率を下回っている。特に理科は 11.8 ポイント下回ってしまった。経年比較において、正答率が第 2 学年では社会、数学、第 3 学年で数学、理科が 0.5 ポイントから 5.8 ポイント下がってしまった。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">i チェックにおける「学級の規範意識」について、第 1、2 学年は標準スコアで全国を 3～4 ポイント上回っている。i チェックにおける「自己肯定感」に関する項目（「勉強やスポーツ、習い事、趣味などで今頑張っていることがあるか」また「自信はあるか」）で高い数値を示している。	<ul style="list-style-type: none">i チェックにおける「自己肯定感」に関する項目（「自分にいいところがあるか」や「やる気が出たという授業はあるか」）の各学年の肯定率が全国と比べ 5 ポイント以上低い。特に 1 年生に自己肯定感が低い傾向が見られる。「土日や祝日に全く勉強しない」が全国平均を大幅に上回っている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">漢字コンテストの取組が浸透し、どの学年も不合格者が減った。特に 1 年生は全員が合格し、「やればできる」を実感できた。校内研修の充実。年 2 回の校内研究授業や年 3 回の授業観察期間、さらには学習意欲を高める研修を行うなど、学力向上マネジメント推進校としての取組を行っていく。	<ul style="list-style-type: none">決まった生徒ではあるが、授業中に伏せている生徒や授業道具も出さず、集中できない生徒がいる。放課後補習教室への受講者数や家庭学習サービスのラインズ e ライブラリアドバンスの利用率さらには長期休業中の自主課題の作文コンテストの参加率など、自主的な学習が不足している。家庭学習確認テストの合格率が低い。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 全校体制での校内研修の充実と授業力の向上を目指す取組を行う。

- ・年2回の研究授業、年3回の授業観察週間を充実させ、研修部を中心に、「分かる授業」「学力が向上する授業」の実践集を作成し、墨田区学習状況調査の結果の各階層に合わせた取組事例の共有を図り、全ての教科で活かせるようにする。
- ・単元の目標を踏まえた本時のめあてを明確にし、「ふりかえりシート」等で一単位時間内のまとめを確実に実施する授業を展開することで、学習内容を「できる」「分かる」ようにし、記憶の定着、学習意欲の向上を図る。
- ・授業規律を高めるためにも、文中 Challenge&Change（文中CC）の徹底を図る。

(2) 「学力向上マネジメント推進校」として、学習意欲を育む取組を行う。

- ・墨田区学習状況調査及びiチェックの結果の検討・分析を校内研修で行い、生徒の実態を踏まえた指導を行う。
- ・学力向上マネジメント推進校として、東京未来大学との連携による研修を行い、学習意欲測定尺度を個別に集計、判定し、内発動機づけを高める取組を行い、自律的に勉強に取り組む生徒を育成する。
- ・教育活動全体を通してチーム文花中としての意識を高め、他者受容感や自己肯定感、自己効力感の向上を図り「やればできる」生徒を育成する。
- ・朝読書・朝学習を学習意欲の向上に役立てる。

(3) 補習学習や家庭学習の必要性や重要性を意識させる取組を行う。

- ・放課後学習教室や家庭学習の取組を、進路学習部を中心に計画を立て、実施する。
- ・各教科で「ふりかえりシート」等を有効活用し、必ず繰り返し学習を実施する。
- ・個人学習プロフィールを活用し、学習の仕方の分からない生徒を、放課後学習教室等で、補習学習に取り組みさせる。
- ・各学年家庭学習ノートを活用するため、単元テストや小テストを行う機会を短いサイクルの中で計画的に設け、テストの範囲を家庭学習と連動させる。
- ・基礎学力コンテスト前は、出題される問題を、「ホームワークマラソン」として配布し、繰り返し学習させる事で学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和2年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・墨田区学習状況調査において、全観点の平均正答率を全国との差が-5ポイント以内にする。
- ・全教科のD・E層の割合が5割以内を達成し、C層、D層上位以上も伸ばせる指導を行う
- ・同一集団の標準スコアが前年度を下回る教科をなくす。